

令和6年度 「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究」に関わる
「共同利用型」の個人による研究 研究報告書

令和7年4月22日現在

研究課題名	アルメニアにおけるヤジディ教徒の民族的特性と戦時下の行動について	
申請者	氏名	所属機関・職
	小柳悠志	中日新聞・東京新聞編集局

研究成果の概要 アルメニアに居住するクルド系少数民族のヤジディ教徒について以下の考察を得た。（スラ研所蔵の事典類や X.M.Чатоев Участие курдов Советского Союза в Великой Отечественной Войне 1941-1945(1970) などの書籍を参照。アルメニアの Aknalich 村に居住するヤジディ教徒、「全世界ヤジディ会議」への取材も加味した）

- ・ヤジディはソ連時代、信仰や民族的起源の認識が異なるクルド人と同一民族として扱われた。現在のアルメニアでは独自の民族として政党活動や教育の自由が保障され、アイデンティティを確立している。
- ・キリスト教を信仰するアルメニア民族に対して、ヤジディはゾロアスター教などの流れを引き、太陽やクジャクを神聖視する独自の教義を持つ。アルメニア民族とヤジディは互いに文化・生活面での差異を意識する一方、関係は良好である。
- ・アルメニア民族とヤジディは、過去にオスマン帝国（現トルコ）から迫害を受けたという認識で一致し、第1次世界大戦後のアルメニア共和国の建国をヤジディが助けたとの言説を共有している。
- ・アルメニアなどコーカサスに住むクルド人（ヤジディを含む）は、スターリン体制下の1930年代後半、カザフスタンなどに強制移住させられたが、クルド人が対独の大祖国戦争に出征し、「勝利に貢献した」との認識を持っていることもソ連時代の文献で確認できる。
- ・オスマン帝国との戦いという「記憶」でアルメニア民族と結びついたヤジディは、2020年の第2次ナゴルノカラバフ紛争で「祖国防衛」を標榜して、アルメニア軍に加わった。トルコと同じテュルク系のアゼルバイジャンによるナゴルノカラバフ奪還をオスマンによる迫害と重ねる言説が広がった。
- ・アルメニアのヤジディは現状、「イスラム国（IS）」に迫害されたイラクのヤジディらに対して連帯を示す一方、中東の同胞をアルメニアで受け入れることには否定的である。血族的、閉鎖的とも指摘されるヤジディだが、アルメニアにおいては体制に従う少数派の地位向上を優先している。戦争を中心にした記憶の共有、基幹民族との共存のあり方など、旧ソ連圏の少数民族のあり方を俯瞰するうえで興味深い例となりうる。

主な発表論文等（雑誌論文、学会発表、図書 等） いずれも謝辞についてはなし

- ・『2022年のモスクワで反戦を訴える』（講談社、マリーナ・オブシャンニコワ著）解説と訳注を担当
- ・ニュースがわかる AtoZ「東アジアの『新冷戦』」（東京新聞・中日新聞 2024年11月18日）
- ・731部隊 裁かれ続ける細菌戦の罪 悔恨の軍医 ロシアで最期（中日新聞 2024年8月17日）

当該研究活動をもとに採択された研究プロジェクト（応募中の研究プロジェクトを含む）
現段階ではなし

※枠を調整することは構いませんが、ページは追加しないでください。